

## グループインタビュー①

参加団体	重要	困難・課題
防災政策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民の方へ取組を知ってもらう</li> <li>防災を身近にするための『継続的な啓発』</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常生活で防災を考える機会が少ないため忘れられがち</li> <li>啓発するためのツールがないので、継続的な啓発に繋がらない</li> <li>防災士の資格を取った人を次のステップへつなぐ</li> </ul>
新エネルギー・環境政策課	<ul style="list-style-type: none"> <li>日頃から鏡川の上流と下流で関係を築いておくことで、もしものときの支え合いにつながる。また、その意識を「ぼっちり」という「自然と人・人と人の関わりを創出・拡大し、可視化するツール」を使って推進すること</li> <li>「ぼっちり」を知ってもらい、使ってもらうこと</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鏡川の保全や里山の保全を、市民はもちろん他部署とも協働で行っていく必要がある中で、「ぼっちり」がシステムとして、市役所の部署として利用するには向いていない（PC管理ができない）</li> <li>市役所内部の職員に「ぼっちり」の仕組み・目的を十分に伝えきれていない</li> </ul>
高知市市民活動サポートセンター	<ul style="list-style-type: none"> <li>広報力</li> <li>情報やノウハウを社会課題の解決に向けてつなげていく。また、サポートセンターを市民活動団体だけでなく行政等にも使ってもらう</li> <li>町内会のあり方が変わりつつある中で、必要な行政の役割・NPOの役割、できること、を整理する必要がある</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>中間支援をする中で知った気づきや情報、設立から20年の人脈やノウハウの蓄積を活かしきれていない</li> </ul>
こうち減災女子部	<ul style="list-style-type: none"> <li>実は「もしも」に繋がることが日常には意外とあって、切り口を変えているんなところに「防災」を出すことで、根付かせていく</li> <li>防災について知りたいと思っている人のところへ細かく出ていく</li> <li>人材育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢の男性中心の場所（自治組織等）へ入っていきづらい</li> <li>平日夜間の会議への出席や障がいを持つ方や小さな子どもを育てる親が訓練へ参加すること</li> <li>減災女子部自体がソーレが主体となるため、地域へ関わっていくことが難しい</li> <li>社会的な繋がりが少ない人は防災活動などの情報が入ってこない</li> <li>地理的な地域だけでなく、実際に活動をする現場に「人」を繋いでいく</li> </ul>

### 課題・困難を乗り越えていくためにどんな連携・協働があるか

### 「ぼっちり」の利用促進



防災政策課  
→クラウドファンディングで導入した「トイレトレーラー」を防災の関係のない屋外のイベントに設置し、実は災害時に役立つことを知ってもらう

環境のイベントに、地域のお祭りに「防災」ブースがある

こうち減災女子部  
→子育て支援センターや地域へ出て、ちょっとした防災の知識を伝える

プラットフォームの統一  
同じ目的（啓発・周知）のツールは一つに！  
LINEやtwitterなど生活の真横にあるツール



市民に啓発・周知の前にまずは役所内部への周知を徹底！  
市役所は2,000人の市民の集まり。役所自体が巨大な広告塔

高知市のゴミ収集のようにLINEで分かる仕組み！

